

学長のコラム

水上スカイヴィレッジ 高校生アスリート支援

「熊本保健科学大学 スポーツヘルスサイエンス事業*」の一環として、8月6日（金）に「水上スカイヴィレッジ」で実施されたアスリート支援に同行しました。この日は県内外（熊本、鹿児島、宮崎、愛媛）の高校陸上（駅伝）部4チームが夏期合宿を行っており、本学から、松原、鏑木、益満の3教員と学生18名（PT14名、OT3名、大学院1名）が参加して、支援を実施しました。

今回の合宿の責任者である九州学院陸上部の禿雄進（かむろゆうしん）監督によれば、「水上スカイヴィレッジ」は、準高地にあるため夏でも涼しく合宿には最適の場所とのこと。確かに、この日も平地ではうだるような暑さで熱中症が気になるほどでしたが、標高約1,000m（最高地点977m）のスカイヴィレッジに到着すると小雨混じりのうっすらと霧のかかる山岳気候で、気温も平地より10度は低いと思われ、熱中症の懸念は吹き飛びました。山の天気は変わりやすく、時折、激しいシャワーに見舞われましたが、しばらくすると晴れ間も見えて、トレーニングにはまずまずの天候でした。高校生たちは運動選手らしくハキハキしており、私の前を通るたびに「こんにちは」と大きな声をかけてくれて、清々しい気持ちでした。

往路に立ち寄った水上村役場の田代総務課長によれば、水上スカイヴィレッジは準高地という立地を活かしたトレーニング施設として、2017年5月にオープンした地域振興の目玉で、宿泊は村内の湯山温泉の旅館や民宿が利用できるとのこと。後日、本学を訪問された中嶽村長からもスカイヴィレッジを核としたトレーニング施設の拡充計画を伺いました。

役場を後にして現地に向かいましたが、宮崎県境の峠付近にあり、アクセス道路は曲がりくねった急坂続きで、現地に近づくにつれて道幅が狭くなり、離合困難な場所もありました。一応、国道（酷道と揶揄されることもあるらしい）に指定されており、国の費用で拡幅工事が行われており、完工が待ち望まれます。

アスリート支援の内容は、血中乳酸値測定、動作（フォーム）解析、骨密度測定、体成分（筋肉、脂肪量など）分析、心理検査などで、学生諸君は積極的に検査に携わっており、アスリート支援の現場を実体験出来たものと思います。この取り組みが、申請中のPT増員とスポーツリハビリテーションコースの開設に結びつくものと期待しています。

話は変わりますが、今月6日～16日に2回目のワクチン接種を実施しました。後半は梅雨末期を思わせる豪雨に見舞われましたが、無事、2回目の接種を終了することが出来ました。接種業務を担当していただいた多くの教職員の皆様に感謝申し上げます。ワクチン接種については来月のコラムで総括したいと思います。



300mの全天候型トラックと全長2kmのクロスカントリーコースが整備済み

乳酸値測定のための自己血採血指導

*熊本保健科学大学 スポーツヘルスサイエンス事業とは、PT松原准教授、鏑木講師、OT益満准教授の3名が中心となり立ち上げ、5月の理事会・評議員会で承認された事業。本学の保健科学に関する専門的な知識と技術を「スポーツアスリート支援」に活かすため、支援ニーズがある場所へ積極的に出向いて行うサテライト型地域支援事業であり、将来的には、ジュニア世代やシニア世代への支援も視野に入れている。また一方で、本学における学生教育（スポーツリハビリの実践を学ぶ場）にも有意義な機会であり、地域貢献×アスリート支援×学生教育という相互メリットを生み出す。

8月・9月・10月の主な行事予定

8/29 (日)	チャレンジ熊本大！推薦選抜対策講座 (オンライン実施)
8/31 (火)	第1回FDセミナー/遠隔授業実践報告会
9/5 (日)	9月期オープンキャンパス
9/11 (土)	学生間交流 (大邱保健大学)
9/15 (水)	銀杏学園理事会
9/19 (日)	オープンキャンパス (8月延期分)
9/22 (水)	第1回利益相反に関する研修会
10/8 (金)	国際シンポジウム「The 6th Allied Health Sciences International Symposium 2021」

2021年度熊本保健科学大学CMが完成しました

広報委員会で検討を重ね、4年ぶりにCMを制作しました。今回も各学科・専攻の学生さんにご出演いただき撮影を行いました。学生さんも初めてのCM出演で、最初は緊張されていましたが、徐々に慣れ、最後は素晴らしい笑顔とメッセージを撮影することができました。このCMをきっかけに、多くの方が熊本保健科学大学に興味を持っていただければ幸いです。

今年度は8月～1月に熊本では主にKKTで放映される予定ですが、他県では宮崎・鹿児島・沖縄でも放映される予定です。本学YouTubeチャンネルでも公開しておりますので、是非そちらもご覧ください。

(文責：入試・広報課)



看護学科とST専攻学生のCMと本学YouTubeチャンネルのQRコード

・新型コロナウイルス関連

熊本県には、8月8日（日）～9月12日（日）まで「まん延防止等重点措置」が適用されています。上記を受け、本学でも8月8日（日）付で「新型コロナウイルス感染拡大防止のための行動基準」がレベル「4」に設定されました。

考えてみませんか、あなたのライフプラン！

（「私の部屋でランチを」第46回）

図書館が主催する「第46回私の部屋でランチを」が7月20日（火）にキャンパステラスで開催されました。助産別科の4名の学生を演者に迎え「ライフプランと妊娠・出産」について講演と意見交換が行われました。

4名の学生は、A子さんとB男さんという架空の大学生カップルの日常をたどりながら、互いのキャリア形成やライフプランについて考えていきます。性感染症予防や予期せぬ妊娠をしない行動、コンセプションケアの重要性について話しました。

助産別科の山本講師は「キャリア形成のスタートラインに立つ学生同士で、ジェンダーの枠をこえた視点で語り合い、お互い最高の健康を維持していくことがライフプランの達成に繋がる」と語られました。

（文責：企画・人事課）



講演を行った4名の学生

本学におけるワクチン接種（職域接種）の状況について

教職員の皆様のご多大なるご支援を得て、7月の第1クールと8月の第2クールで、新型コロナワクチンの職域接種をほぼ終了することができました。接種の状況について、以下のとおり報告します。

○第1クール（7/9～7/19）

1回目接種者

1,451人〔内訳：学生1,283人、教職員133人、他35人〕

○第2クール（8/6～8/19）

1回目接種者 11人〔内訳：学生2人、教職員3人、他6人〕

※11人の2回目接種は、9/9～9/10に保健室で実施予定。

2回目接種者

1,446人〔内訳：学生1,278人、教職員133人、他35人〕

最終的に、学部学生の89.1%が2回接種を終了する予定です。また、この他に、外部医療機関等で既に2回の接種を終了している学生もいますので、接種率は90%を超えることが予測されます。（文責：事務局長 河瀬晴夫）

高校生の一日看護学生体験

熊本県看護協会の依頼を受けて、7月28日（水）の午後、高校生の一日看護学生体験を実施しました。当日は猛暑の中、熊本県下16の高校から3年生24名の参加がありました。まず、3108講義室で模擬授業「新生児の看護」を体験、その後3406実習室で「新生児のバイタルサイン測定」「新生児の沐浴」の技術演習を体験、最後に当日受付や技術演習を手伝ってくれた看護学科4年生4名との交流会を行いました。今年度は、COVID-19の影響により、フェイスシールドやマスクの着用、手指消毒等々、徹底した感染対策を行いながらの実施でしたが、アンケート（県看護協会実施）では、全員が「大変有意義だった」と回答しており、「先輩方の姿がとてもしっかりと、熊本保健科学大学の学生になれるよう頑張ります」「実際に大学生の話聞いてよかった」など、緊張の中にも楽しく体験でき、大学で学ぶことの魅力を感じてもらえたようでした。

なお、この体験に一昨年度参加した高校生23名のうち5名が現在看護学科2年次に在籍しています。（文責：看護学科長 羽田野花美）



新生児のバイタルサイン測定（写真左）と新生児の沐浴（写真右）の様子

令和3(2021)年度助産別科臨地実習適格認定書授与式

令和3年度助産別科臨地実習適格認定書授与式を7月30日（金）に行いました。竹屋元裕学長から、実習要件を満たした助産別科15期生19名に臨地実習適格認定書が授与されました。また、河瀬事務局長、久保田就職・実習支援課長からご祝辞をいただきました。学生誓詞では、COVID-19感染防止の観点から事前に作成されたDVDを映しました。このDVD作成を通して、別科生は気持ちを新たに、仲間と共に支え合い励みあっていく姿勢も育っていったようでした。臨地実習適格認定書授与式を一つの節目として、これから臨地実習が始まります。今後もコロナ禍という逆境をしなやかに乗り越え、助産実践力や豊かな人間性を育んでいけるよう願っています。



（文責：助産別科長 原田なをみ）

授与式に臨む別科生

※この記事は公開していません。

私の秘話ヒストリー

今回はリハビリテーション学科理学療法専攻の岩下 佳弘 准教授に投稿していただきました。

小学生の息子が地球温暖化問題について書かれた新聞記事を読んで要点を整理して要約するという宿題を持って帰ってきました。小学校高学年になるとこんな難しい問題に取り組むんだと感心していると、息子は内容を把握できないためかどンドン不機嫌になっていきました。手伝わないとまずいと思い、一緒に読み合わせをしたり、耳慣れない用語を国語辞典で調べたり、社会や理科の教科書を引っ張り出し、グラフの読み方を算数の教科書で確認したり、さらに教科書に載っていないことはインターネットを使って調べたりと、一緒に大変な思いをしました。「これっていったい（息子と私の）どっちの宿題なんだ？」「（息子は）どれだけ理解できたのだろうか？」と疑問を持ちながら、何とか仕上げました。次の日、息子が国語の宿題（説明文の音読）を終えた後、「昨日の地球温暖化とつながっているね。」とニコニコしながら言ってきました。内容は森に生息するキノコや小動物（微生物）が森を育てるという内容でした。息子の発した言葉に、アクティブラーニングの先には、このような思考の広がりがあるのかと思った瞬間でした。